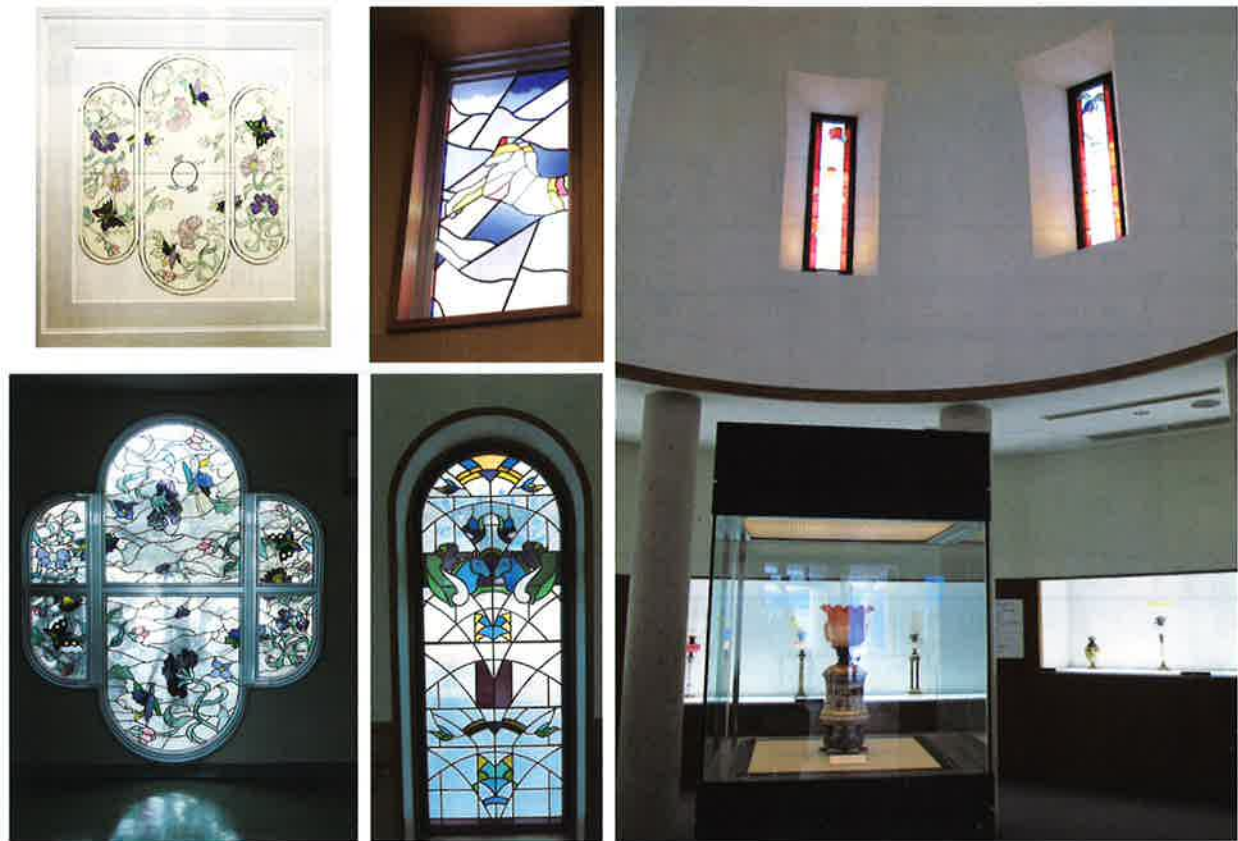


平成 26 年 3 月 15 日 発行 鷹山宇一記念美術館友の会
 〒 039-2501 青森県上北郡七戸町字荒熊内 67-94 七戸町立鷹山宇一記念美術館内
 TEL 0176-62-5858 FAX 0176-62-5860 e-mail info@takayamamuseum.jp http://www.takayamamuseum.jp/



〈七戸に点在するステンドグラス〉

〈現在公開中のランプとステンドグラス〉

「池内さんの遺したもの」

2月の館内整備に伴ってランプ館内のランプの展示替えを行いました。絵画だけでなく、鷹山宇一記念美術館には鷹山先生がコレクションした日本や欧米の貴重なオイルランプも多く展示しておりますので、この機会にどうぞご覧いただければと思います。

ランプ館といえば、天井には花を模した色とりどりのステンドグラスがあることに気づかれる方も多と思います。このステンドグラスですが、時間帯によってはここから透過される美しい色彩を目にすることもでき、美術館の楽しみに文字通り色を加えてくれます。

このステンドグラスは、作家の池内康さんによって制作されたものです。池内さんは今から20年前に、館の完成を見ることなく51歳の若さでこの世を去り、当美術館のステンドグラスが絶作となりました。

若くしてお亡くなりになった池内さんですが、彼女は七戸町にいくつかのものを遺していつてくださいました。

実は、七戸の町では、当館の他に現在3つの場所池内さんが考案したステンドグラスを目にすることができのです。

遺作となった原画をもとにご家族のご好意とクレーレ工房の協力を得て創られたこれらのステンドグラスは、あるものは子どもたちの集いの場のシンボルとして、またあるものは年配の方々の交流の場を彩る助けとして、町に欠かせない存在になっています。

窓の装飾であるステンドグラスは、それが素晴らしい意匠のものであっても誰が創ったものなのかまで意識してみることが少ないと思います。

これらのステンドグラスを見かける機会があった際には、こんな裏話があったなと思いつきながら見ていただけるのも楽しいのではないかなと思います。今回こういつた記事を掲載させていただきました。

(学芸員 奥山庸子)

もうすぐ竣工

鷹山宇一記念美術館 増築工事



戦後、東郷青児とともに二科会の再建に尽力する傍ら、幻想的世界を希求し描き続ける

鷹山宇一画伯を顕彰しようと町民総意の下、建設された当美術館は、開館してから二十年の歳月が経ちました。

この間、制作した数多くの作品を展示する「鷹山宇一の世界」展をはじめ、彼のコレクション「西洋ランプ」の公開等を開催してきました。二十周年を記念し、来館者の皆様方に絵を観て話らい、歓談できるように現在のホールを拡大して談話室的機能を持たせることと、ご不便をお掛けしてきたお客様の情報交換等ができる場として応接室を設けることになりました。



ホール(談話室)

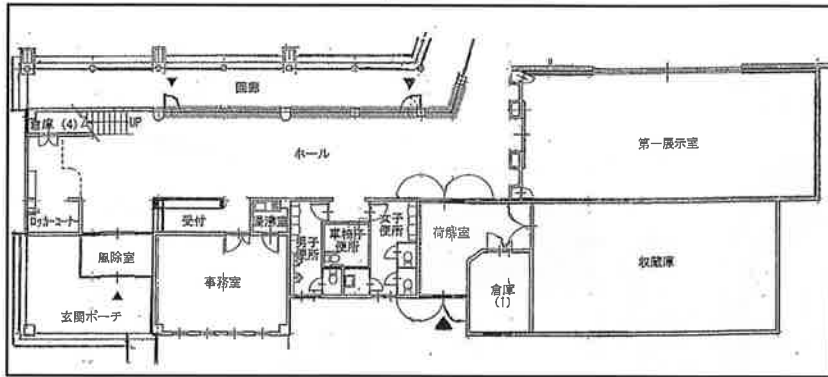
現在、雪混じりの寒風吹き荒れる悪条件のなか、三月末の竣工を目指して増築工事がキュウピッチで進められています。

この増築部分を平面図に表すと容易に理解して頂けるものと思います。

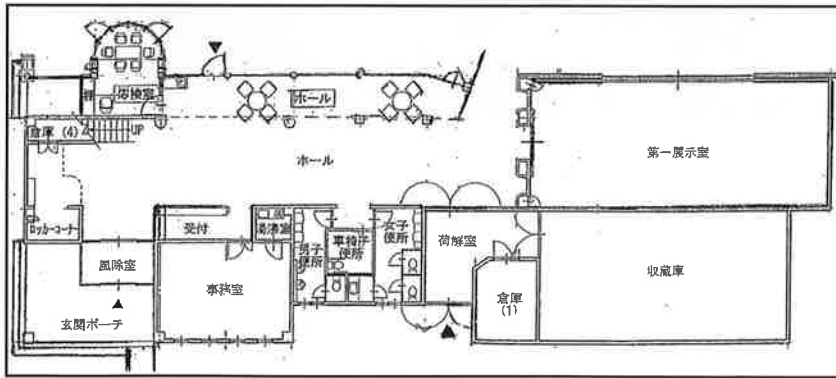


応接室

現在



増築後



ご承知のとおり、東日本震災復興事業や全国的なインフラ整備事業が集中しており、鉄骨等の生産加工が間に合わず、建設業者が工期に合わせて発注しても入手が非常に難しいことに加え、職人の確保が容易でないため、設計事務所と業者が頻繁に工程等の進捗状況等について打ち合わせをしている様子を見るにつけ、業者の苦悩は、計り知れないものがあると感じています。

開館二十周年

記念事業の取り組み

(館長 船山 義郎)

この連携の下、作業は手際よく、迅速かつ効率的に行われています。竣工後、来館者の皆様が心地よく寛いで歓談して頂けるための環境づくりと、もう一度来てみたいと思うような魅力ある美術館を目指すことが喫緊の課題だと痛感しています。そのためにも、関係者各位のご理解とご協力を賜りたいと存じます。

七戸町立鷹山宇一記念美術館は、平成六年開館以来、皆様に支えられて本年八月一日には開館二十周年を迎えることとなります。

その記念事業の一つとして、日本芸術院賞を受賞された彫刻家吉野毅氏の制作による彫刻を設置することが決まりました。当美術館の重みが一層増すこととなり、関係者各位が期待しているところであります。



「請」

画友を敬愛し
自分らしく

今、当美術館では「鷹山宇一と七戸ゆかりの画家たち」展を開催しています。画家たちとは、鷹山宇一をはじめとし、鳥谷幡山、上泉華陽、平野四郎です。

鳥谷幡山は、明治九年、七戸町で生まれ、七戸尋常小学校に在籍しました。幡山(雅号)は、東京美術学校(現 東京藝術大学)在学中、狩野派最後の巨匠とも称された日本画家橋本雅邦より宋元風の絵を学びまし



鳥谷 幡山

た。二十歳のとき、初めて十和田湖を訪れ、その神秘的な美しさに魅せられたことが端緒となり、以来これを画題として生涯、自ら「神苑靈湖」と称した十和田湖の紹介に努めました。



「十和田湖」

上泉華陽は、明治二十五年、山形県米沢市で生まれました。父が獣医であり、生家には何頭もの軽種馬が飼われていたので、紙と筆さえあれば一日中、厩で過ごし、絵を描いていたと言われていました。華陽(雅号)は、東京美術学校卒業後、奥羽種馬牧場(現 家畜改良センター 奥羽牧場)で名馬と出会い、その後、アラブ種の馬が多い七戸町に腰を据え、多くの作品を描き続けました。



上泉 華陽



「馬：サラブレット」

晩年は、町内の天王神社にあるツジの杜の造成に尽力され、現在では町の名所となり、開花の時期には県内外から観光客が訪れ、賑わっています。

平野四郎は、明治三十七年、七戸町で生まれました。青森師範学校を卒業した二年後の大正十五年、七戸尋常高等小学校へ転任しましたが、絵画制作への想いは途切れることなく、昭和四年十月、棟方志功や鷹山宇一を訪ねた後、上京する意志を固めました。



棟方 志功

て教職を辞し、川端学校に入学しました。毎年、スケッチする数は半端なものではなく、しかも、文学的要素の強い作品に心酔し、独創的な画風を極めていきました。七戸ゆかりの各画家について記してきましたが、平野四郎と鷹山宇一との結びつきに強い関心を抱きました。



平野 四郎



「北 渚」

確かに二人とも七戸尋常高等小学校では、学業に秀でた同窓生ですが、明治四十一年十二月生まれの鷹山宇一との年齢差は四歳です。



七戸尋常高等小学校

平野四郎は、青森師範学校に入学した一年生のとき、筒袖を絵の具だらけにして、近眼のため、カンバスに顔をくっつけるようにして描いていた棟方志功と出会い、その後、展覧会や写生会を通して行ったり来たりする間柄となったそうです。

鷹山宇一も旧制青森中学校入学後、棟方志功との出会いについては同じような経験をしています。その後、周囲の友人から、青森中学の鷹山、民間の棟方、師範の平野の三羽鳥と言われていました。

大正十三年、師範学校卒業後、鷹山宇一とは頻繁に行き来して画論に花を咲かせたり、一緒に上泉華陽を訪ねて絵画「せせらぎ」の批評をお願いしたりして画友としての結びつきを一層強めていきました。特に平野四郎は、故郷を愛しく思う鷹山宇一が七戸町に帰省したとき、一緒に散歩したり、スケッチしたりして旧交を温めていきました。このように、平野四郎の回顧帳に目を向けますと、大正十二年十九歳のときから昭和十七年三十八歳までの十九年間、鷹山宇一との交友関係について事実のみですが克明に記されています。



大正13年制作「せせらぎ」



鷹山 宇一

このような幾年過ぎて離れて居ても友を想う心を持ち続ける二人の生き方を美談として捉えるのではなく、いまを生きる私たちへの教訓的糧として大切にすべきだと思っています。



日本広報協会

(館長 船山 義郎)

平成26年度

特別展

ごあんない

画業40年記念

黒井健 絵本原画の世界展

～ 物語との出会い ～

会期 4月19日～6月1日

『ごんぎつね』、『手ぶくろを買
いに』、『ころわん』シリーズなど
の絵本作品で知られる黒井健さん
は、2012年、画業40年の節目
を迎えました。色鉛筆やパステル
を使った独自の技法で描
かれた繊細なタッチの絵
本や画集は、これまで2
00冊以上にのぼり、多
くの人々を魅了してきま
した。
心振るわせる物語との出
会いを通して、感動を表
現した黒井健さんの絵画
は、優しさ、愉快さ、時
には哀しさを深い余韻と
して私達に届けてくれま
す。そしてその絵本の原



『ごんぎつね』 偕成社 © KEN OFFICE, 1986

黒井健氏サイン会
4/19(土) 11:30～

対象：展覧会会場にて図録
もしくは書籍を購入された
方に整理券を配布いたしま
す。先着100名様。お一人
様1回限り、1冊まで。

・ 絵本の読み聞かせ
5/19(木) 10:00～11:30
協力：「おはなしのへや」
「ゆりかご」

画は、息を呑むような繊細な線の
緊張感や、優しい濃淡の調和から、
言葉と心に寄り添う情を感じさせ
てくれます。

本展覧会では、教科書でおなじ
みの新美南吉・宮沢賢治の作品を
はじめ、国内外の優れた児童文学
作品との出会いの中で、言葉に寄
り添って描かれてきた作品の中か
ら厳選した原画をご紹介します。
また、フェルトアーティストであ
る娘の凧さんとのコラボレーショ
ン作品も展示します。

黒井健展 入館料

一般 850(650)円
高校・大学生 400(320)円
小中学生 200(160)円

* () 内は前売券、15名様
以上の団体 県民カレッジ受
講者、JAF会員割料金
* 前売券は、4/18迄美術館
窓口及び下記にてお求めい
ただけます。
ローソン、ファミリーマ
ート、セブンイレブン、
サークルKサンクス各店
JTB商品番号 0236599

日本近代洋画への道

～ 山岡コレクシヨンと

鷹山宇一作品を中心に

会期 7月19日～9月15日

笠間日動美術館が所蔵する、初
期洋画の収集で名高い山岡コレク
シヨンから高橋由一作品を中心
に日本洋画草創期の主要な作家の作
品を鷹山宇一作品と合わせて紹介
いたします。

【主要作品作家】

高橋由一、司馬江漢、亜欧堂田善、
チャールズ・ワグマン、ジョル
ジュ・ビゴー、川村清雄、山下
ん、五姓田芳柳、五姓田義松、小
山正太郎、ラファエル・コラン、
山本芳翠、黒田清輝、湯浅一郎、
岡田三郎助、満谷国四郎、和田英
作、渡部審也、橋本邦助、中村不
折、青木繁、他

第74回国際写真サロン展

○会期 10月11日～11月3日

当館恒例の写真展。国際写真サ
ロン展は世界の写真愛好家を対象
にした写真の国際交流展です。1
927年に第1回が行われ、毎年、
写真表現の可能性に挑戦した多彩
な作品が集まります。
今年も国内・国外の入賞作品
130点を紹介いたします。

第31回日本の自然写真展

○会期 10月11日～10月29日

いつまでも守り続けたい「日本の
自然」をテーマに、風景や動植物、
人間の営みなどをストレートに表
現した作品を多数紹介いたします。

館内保守監視 ボランティア活動 へのお誘いとお隣り

特別展開催中の当館内で、
作品とご来館のお客様の安全、
そして、より良い鑑賞環境を
保守するために、皆様のお力
添えが必要です。

ご興味がおありの方は、美
術館までご一報ください。ご
協力を賜りますよう、よろしく
お願い申し上げます。

0176-62-5858

第14回鷹山賞児童作品展 第14回地球環境世界児童画 コンテスト優秀作品展

○会期 11月9日～1月4日

青森県の小中学生を対象とした絵画コンクールです。25年度より作品募集の幅を青森県南部地方から県全体へと拡大いたしました。「子どもの感性は風土の中で培われる」の精神の下、公募してきた鷹山賞ですが、今年はどうな作品がやってくるのかどうぞお楽しみに。

同時開催の地球環境世界児童画コンテストは、世界各国の児童を対象にした作品展です。第14回展は、77カ国の子どもたちが「地球で生まれた仲間たち」というテーマに挑戦いたしました。応募数約1,6000点のなかから70点の優秀作品を紹介する予定です。あわせてご覧いただければ幸いです。

県南コレクターの所蔵展

○会期 1月10日～1月25日

26年度からの新しい試みで、青森県南部地方にお住まいの方々が所有する作品をお借りして美術館で展示会を開催しようという趣旨

の企画展です。中央の有名画家の作品から地元に住む現役の作家の作品まで、南部に住むコレクターの方々がどの様に美術と関わり、応援してきたのかをコレクションを軸にして紹介いたします。

展覧会開催の 新しい方策について

美術館で一定の水準の展覧会を持続的に開催することは、実は大変なものである。毎年2回程度開催するとして、作品を借用する為の〇〇万円の資金の確保、有料の観覧者の確保等々、主催者にとって、胃の痛くなること必定である。いくつかの困難をクリアして、いい展覧会と評価され、且つ、収支がつくよう、とは誠に幸運という他はない。

では、絶望的かとなれば必ずしもそうでもない。と思う今日このごろです。先の理事会でも提案致しましたが、七戸町に近隣の、市民の皆様のご協力をいただければ、意外と道が開かれるのでは：と思っております。

彫刻の舟越保武。油絵の東郷青児、福井良之助、小杉小次郎、安野光雅。東山魁夷や藤田嗣治のり

トグラフ等々。まだまだありますよ。

又、近い将来、大都市には立派な作品で、在野にうもれている膨大な個人所有の絵画があります。既に中央のしかるべき方々から適切な活用の道についての御提案を頂戴しております。いつか実現をみることもあろうかと、期待したい。いずれにしてもなんとか道を開こうとするエネルギーがなければなにも始まりません。と付言しておきます。

美術館 常務理事 戸館昭吉

鷹山宇一先生 誕生日 記念日

遊蝶記から

12月15日に、遊蝶記を開催いたしました。

鷹山宇一先生は、明治41年12月10日に七戸町で生まれました。遊蝶記は鷹山先生のお誕生日を

記念した先生を偲ぶ一日として鷹山先生が逝去された翌年から毎年続けられている12月恒例の行事です。

ハッピーバースデーの歌をうたい、ロウソクの火を吹き消して皆様と鷹山先生105才の誕生日をお祝いしました。

毎年欠かさずご参加くださる方、今回初めてご参加くださった方、それぞれが鷹山先生との思い出や、美術館が七戸町にできるまでの話、鷹山先生が若かりし頃の町の様子などを語ってくださいました。しみじみ昔を振り返る、そんな誕生日でした。

今年はどうのようなお話しを拝聴することができるのでしょうか。皆様のご参加を心よりお待ちしております。



わたしのおすすめ美術館

上原近代美術館

七戸町 戸館榮一

テレビで人気の「ぶらぶら美術博物館」という番組で「上原近代美術館」が所蔵するピカソの『科学と博愛』という習作が紹介されました。

2000年1月、友の会の第1回海外研修旅行で訪れたスペイン・バルセロナのピカソ美術館で観たピカソが16歳の時にコンクールへ出品するために描いたという200号の大作『科学と慈愛』に深く感動したことが昨日のことのように思い出されました。

ピカソは『科学と慈愛』の習作を八点描いたといわれ、そのうちの一点がこの上原近代美術館に収められており、残りの七枚の習作はバルセロナのピカソ美術館に収められています。そんな貴重な作品を観たくて、伊豆下田に行ってきました。



ピカソ 『科学と博愛』(習作 1897年)
上原近代美術館蔵

より詳しく解説いたします。と、「上原昭二は『科学と博愛』を、ピカソとマリイロの愛娘マヤ女史から譲り受

けました。これは最終習作であり、マヤ女史が嫁ぐ際に父・ピカソから手渡されたという、父娘にとつて記念すべき作品」ということです。

鑑賞後、予てから資料を送って頂いていた土森主任学芸員とお話しする機会を得て、作品名の違いをお尋ねしたら、原題は同じであるが、日本に入ってきたときの翻訳の違いによるとのことでした。

土森氏とのご縁から友の会の会報に上原近代美術館の紹介を兼ねて寄稿していただきました。

上原近代美術館のご紹介

上原近代美術館

主任学芸員 土森 智典

伊豆・下田市内から車で約15分、上原近代美術館はのどかな里山の中にあります。

上原近代美術館は大正製菓株式会社名誉会長 上原昭二氏(1923年)が蒐集したコレクションの寄贈によって、2000年春に開館しました。美術館のある下田市宇土金は上原氏の母の出身地です。上原氏は日本画を好んだ両親の影響のもと早くから美術鑑賞を趣味とし、30代後半から絵画の収集を始め、古希を機に両親ゆかりの地に美術館を建設しました。上原氏が初めて購入した油彩画はアンドレ・ドラン『裸婦』(1928年)。独特の穏やかな明暗表現が美しい小品です。氏はこの作品を同居

する父に「分不相応」と怒られるのを恐れて、押し入れに隠して時折、眺めていたといわれています。



アンドレ・ドラン 『裸婦』1929年、上原近代美術館蔵

「足長お嬢さん」と呼んで大切にこの作品は、自宅を建てたときに初めて壁に飾られました。こうしてはじまったコレクションはモネ、ルノワール、マティス、ピカソら西洋絵画から、梅原龍三郎、安井曾太郎、横山大観、小林古径ら日本の絵画まで、現在では約300点となりました。

上原コレクションの大きな特徴の一つが須田国太郎の作品です。上原氏が須田作品と出会ったきっかけは驚でした。今では大正製菓のトレードマークである鷺のマークは、上原氏の考案によるものでした。そうした縁から「よい鷺」の絵を探し求め、長年を経てようやく出会ったのが須田国太郎の『鷺』でした。以後、上原氏が蒐集した須田作品は54点、国内有数の規模となります。

コレクションには、コレクターの人物が映し出されるといわれます。上原コレクションの多くは派手ではない、穏やかなものが多く、「焦らず無理せず 背伸びせず」を座右の銘とする上原氏の人物がよくあらわれています。もともと家に飾られていたため、多くは小品ですが、その一つひとつにコレクターの愛情が感じられます。

上原近代美術館ではコレクションをおよそ40点ずつ、季節ごとに企画展を開催しながらご紹介しております。休憩室では遠く天城山を望む開放的なラウンジでお寛ぎいただけます。伊豆の山中にある小さな美術館ではございますが、隠れ家を訪ねるようにゆったりとした気分で絵画をお楽しみいただければ幸いです。

上原近代美術館

- 所在地 〒413-0715
静岡県下田市宇土金341
- 入館料：大人800円 小人400円
- お問い合わせ先
TEL 0558-28-1228
www.uehara-modernart.jp
- 開館時間 9:00~17:00
(入館は16:30まで)

*隣には上原昭二氏の父・正吉氏が設立した上原仏教美術館があります。近現代の一本造りによるこの体の仏像群のほか、平安時代の十一面観音立像、鎌倉時代の阿弥陀如来立像なども展示しています。

